

**2005年度(第1期)**

# **事業報告書**

自 2005年3月1日 至 2006年3月31日

## **目次**

### **I、 2005年度事業報告 事務局案**

- 1、 全体報告
- 2、 個別事業報告
  - 1) 国際ネットワーク推進事業
  - 2) 公益信託アジア・コミュニティ・トラスト(ACT)関連事業
  - 3) アジア貧困半減協働ネットワーク(AJPN)関連事業
  - 4) その他事業
  - 5) ACC21の財政・組織基盤整備事業

### **II、 組織の運営・処務に関する事項**

- 1、 総会
- 2、 役員
- 3、 理事会の開催
- 4、 事務局
- 5、 正会員
- 6、 賛助会員

**アジア・コミュニティ・センター21**

東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館 1階

## アジア・コミュニティ・センター21

### I、2005 年度事業報告

#### 1、全体報告

2005 年度（2005 年 3 月 1 日～2006 年 3 月 31 日）は、2005 年 3 月 1 日に設立されたアジア・コミュニティ・センター21（以下「ACC21」とする）の活動初年度である。ACC21 のミッション「アジア地域において平和で公正かつ創造的な社会を実現するため、『もうひとつの“流れ”』をつくり、市民、民衆そして NGO 等を基礎とした市民社会の協働ネットワークを構築する」を遂行するため、2005 年度は以下の活動を計画した。

##### 1. 国際協働ネットワーク推進事業

- (1) 調査・情報収集事業
- (2) 啓発事業（機関誌の発行、セミナー・講演会の開催、国連ミレニアム開発目標（MDGs）普及活動、「NGO 労組国際協働フォーラム」事務局活動）

##### 2. 公益信託アジア・コミュニティ・トラスト（ACT）関連事業

- (1) 広報・募金
- (2) 案件調査・モニター・評価
- (3) ACT 運営委員会、受託銀行との連絡・調整

##### 3. アジア貧困半減協働ネットワーク（AJPN）関連事業

- (1) 「貧困削減に向けての持続可能な農業推進・能力強化事業」
- (2) その他  
（「東南アジア・日本子ども支援ネットワーク事業」、「マイクロファイナンス（零細金融）普及事業」のフォロー活動、AJPN 運営委員との調整活動）

##### 4. その他事業

- (1) 「NGO - 労組国際協働フォーラム」事務局活動—JANIC よりの受託事業
- (2) 公益信託 今井記念海外協力基金
- (3) 公益信託 川上甚蔵記念国際文化教育振興基金

##### 5、ACC21 の財政・組織基盤整備事業

- (1) 財政基盤の確立
- (2) 組織基盤の整備

この結果、主に実施した活動は、上半期（2005 年 3 月～2005 年 9 月）においては、事務局体制の整備、事業としては、受託事業である「公益信託アジア・コミュニティ・トラスト」(ACT) の事務局、「NGO - 労働組合国際協働フォーラム」の事務局活動、下半期（2005 年 10 月～2006 年 3 月）は、主として「公益信託アジア・コミュニティ・トラスト」(ACT) の事務局活動に注力した。

## 2、個別事業報告

### 1) 国際協働ネットワーク推進事業

#### (1) 調査・情報収集事業

8～9月にアルバイトを採用し、アジア域内をカバーする各分野のネットワーク組織の現状(分野:子ども、農村開発、環境、女性、人権、政策提言)に関する基礎的情報を収集した。

#### (2) 啓発事業

##### ①機関誌「アジアの新しい“流れ”：共生社会に向けて」(仮称)の発行(年3回)

アジアで投資活動する日本企業とアジアの労働問題や貧困問題に関心を持つ労働組合を対象に、アジア各国のNGOの意見を伝え、協働関係の構築を図ることを目的とする。助成金を申請していた連合「愛のキャンパ」より、2005年11月末に助成金300万円が送金されたが、申請事業内容と、(特活)国際協力NGOセンターから受託していた「NGO・労組国際協働フォーラム」事務局業務に関する連合側の理解が十分にされていないことが判明したため、実施を見合わせた。

##### ②セミナー・講演会の開催

セミナーは年度内に3回の開催を予定していたが、以下の内容で1回開催した。

###### 《アジアの子どもたちは、いま》セミナー・シリーズ第1回

###### インド編：「子ども時代は誰のもの～インドの働く子どもとストリート・チルドレン」

主催：ACT/ACC21

ゲスト・スピーカー：子どもの権利活動家 中山実生氏(在インド バンガロール市)

日時：2005年8月5日(金)午後4時～6時

場所：「みなとNPOハウス」2階(東京都港区六本木)

参加者：16名(学生、NGO関係者など)、参加費：500円(資料代)

内容：インドは、子ども人口4億人のうち1億人以上が児童労働に従事しており、その数は世界最大である。同国で最も急速に発展しているIT産業都市バンガロール市で子どもの権利普及活動をしている中山氏が、ストリート・チルドレンや児童労働者の現状報告と、インドの政府、メディア、労働組合、NGO等の取り組みについての紹介をした。

##### ③ 国連ミレニアム開発目標(MDGs)普及活動

「NGO 労組国際協働フォーラム」事務局活動(JANIC よりの受託事業)において、MDGs 啓発・提言グループ活動を行った。(詳細は、P.6 参照)

#### (3) 日比 NGO 連携推進準備事業(特別事業)

伊藤代表理事のイニシアティブにより、日本とフィリピンの NGO 間の連携とフィリピンでの日比 NGO 間の協働事業に対する日本の政府開発援助(O DA)資金の適用可能性を探ることを目的に、「日比 NGO 連携を進める有志の会」が、2006年2月2日に発足。有志メンバーは、新屋敷道保氏(オイスカ)、高橋秀行氏(ジョイセフ)、北谷勝秀氏(2050)、横田宗氏(アクション)、伊藤で構成。2月15日には、本有志の会の呼びかけで、「フィリピンに関わる NGO 関係者の集い」をアジア文化会館で開催(13団体、3大学より20名が

参加)。参加団体の活動紹介後、日比両国の関係正常化 50 周年記念行事への参加とフィリピン・マニラで 2 月 23 日に開かれる「日比 NGO 会合」への参加について協議した。

2 月 23 日には、マニラで開かれた「日比 NGO 会合」に伊藤が出席し、日比 NGO のフィリピンでの活動調査、日比 NGO 合同シンポジウムのマニラでの開催、日比 NGO の合同フェアのマニラでの開催を活動計画として採択し、それぞれのテーマの下で、作業部会が設置され、準備を始めることになった。

ACC21 では、上記一連の作業を進めるにあたり、日本での事務局作業を自発的に行った。

## 2) 公益信託アジア・コミュニティ・トラスト (ACT) 関連事業

中央三井信託銀行 (ACT 代表受託者) より受託している公益信託アジア・コミュニティ・トラスト (ACT) の事務局活動を行った。

### (1) 広報・募金／会員・寄付者管理

#### <広報・募金活動>

- 連合「メーデー」(4 月 29 日、代々木公園) における ACT 活動紹介ブースでの広報
- ACT 支援者拡大と事務局体制の充実化を目的とした「ACT 活性化委員会」の開催 (7 月 11 日開催、広報ビデオの編集とパッケージデザイン・印刷 (2005 年 12 月完成)、ACT パンフレット編集 (年度末完成)、ACT ロゴ制作 (2005 年 10 月決定))
- ACT ホームページの開設 (10 月)
- 1980 年代後半～90 年代前半に ACT が支援し、15 万人の貧困女性を対象にするマイクロファイナンス (草の根金融) 機関に成長したフィリピン CARD (農業・農村開発センター) グループ会長のアリス・アリップ氏の来日期間中 (10 月 1～6 日)、マスコミ取材、各種会合 (運営委員、信託銀行、信託管理人、NGO 関係者、国際協力銀行) の開催
- 「グローバルフェスタ・ジャパン」(10 月 1・2 日、日比谷公園) における ACT 活動紹介ブースでの広報
- アリス・アリップ氏 (フィリピン CARD グループ代表)、インドネシア・アチェで津波緊急・復興支援活動を行う現地 NGO・Yakkum ディレクターのシギット・ウィジャヤンタ氏と、学生、NGO 関係者の意見交換会の開催 (10 月 2 日、グローバルフェスタ・ジャパン会場にて)
- 「ACT 年次報告 2004 (25 周年記念号)」編集・発行 (2005 年 11 月) と会員、寄付者、信託銀行、企業、団体への配布
- 「ACT25 周年記念パーティー平和なアジアのコミュニティづくりに向けて」の開催 (2006 年 1 月 20 日、アジア文化会館、ACT 会員・寄付者、功労者、ACT 関係者など約 70 人が参加)

#### <会員・寄付者管理>

会員・寄付者管理を行い、寄付者・会費納入者への礼状・税控除書類を発送した。

## (2) 案件調査・モニター・評価

「2004年度 ACT 運営委員会」(2005年3月)で決定された2005年度助成事業への助成に伴う以下の業務を実施した(2005年度助成事業:4カ国13事業、助成総額1,638万円)。

- 実施団体との連絡調整(協定書作成と発送、送金手続き、進捗状況確認、中間報告書の提出確認と翻訳)
- 助成事業モニタリング(実施者鈴木:インドネシア、カンボジア7月末~8月中旬、フィリピン11月末~12月中旬)。
- 2004年度助成事業の完了報告書とモニタリング結果を基礎にした評価活動と、「ACT2004年次報告」(11月発行)での紹介
- スマトラ沖地震・津波被災地3カ国での復興支援事業の案件発掘調査(特別基金「大和証券グループ津波復興基金」、一般基金への寄付(日本労働組合総連合会)から支援、インド・スリランカ2005年3月、インドネシア2005年7月17日~26日)
- ACT フィリピンデスクの事務委託契約(委託先「アジア農地改革・農村開発 NGO 連合(ANGOC)」)とデスク担当者(1名)との連絡調整(契約期間:2005年4月1日~2006年3月31日)

## (3) ACT 受託銀行、運営委員会との連絡・調整

- 2005年度以降の ACT 活動の拡大と強化を主目的に、事務局委託契約費や広報活動費などの予算増額に関する、代表受託者(中央三井信託銀行)との協議、「信託事務に関する協定書」締結

2005年度以降の ACT 活動の拡大と強化を主目的に、事務局委託契約費や広報活動費などの予算増額に関し、代表受託者(中央三井信託銀行)と協議し、ACC21 に対して次の内容で支払われることで合意した。

— 広報活動および事業発掘・モニタリング・評価活動の実費

— 事務局受託費として2005年度前期は100万円、後期は195万円(2006年度は、前期・後期ともに195万円ずつの予定)

- スリランカでの津波復興事業の申請案件審査を行う「2005年度臨時運営委員会」(7月11日開催)の資料作成と申請案件の説明、決定4事業(総額1,080万円)の実施団体との協定書締結と送金に関わる連絡調整、寄付者への報告(9月)
- インドとインドネシアでの津波復興事業の申請案件審査を行う「2005年度臨時運営委員会」(11月24日開催)の資料作成と申請案件の説明、決定3事業(総額812.9万円)の実施団体との協定書締結と送金に関わる連絡調整、寄付者への報告(2005年12月~2006年1月)。
- 2006年3月1日の2005年度 ACT 運営委員会の資料作成(2005年11月~2006年3月)と申請案件の説明、2006年度決定9事業(フィリピン6件、インドネシア1件、カンボジア2件、助成総額1,400万円)の実施団体と、不採用となった申請団体への連絡および協定書の作成(2006年3月)
- 寄付・会費納入に関する各受託銀行との連絡調整(毎月)

### 3) アジア貧困半減協働ネットワーク(AJPN) 関連事業

#### (1) 「貧困削減に向けての持続可能な農業推進・能力強化事業」

(実施国：フィリピン、インドネシア、インド)

ACC21は2005年4月より本事業のコーディネーター機関として、財源の開拓、日本側のリソース(人材、情報、技術等)の発掘・共有化への協力を行っている。

##### ①フィリピン事業管理事務所との調整

伊藤が、2005年8月にフィリピンにおいて、フィリピン事業管理事務所と事業内容等の調整を行うとともに、ロエル・ラバネラ事業責任者らと来年度事業のための資金開拓について話し合い、協力してフォロー活動を行った。

##### ②日本の農業関係団体・個人との交流と連携促進

11月に来日したロエル・ラバネラ事業担当者とともに、FAO 日本事務所代表、全国農団労委員長を訪問し、持続可能な農業について情報交換ならびに今後の協力について話し合った。

趙漢珪氏来日(2005年11月)に際し、ACC21理事の山田祐彰氏の同席を得て、趙氏が進める自然農業とAJPNの今後について意見交換を行った。2006年2月に再び来日した趙氏と、日本の自然農業協会事務局長との間で情報交換の非公式会合を持った。

##### ③年間レビュー会合、事業終了評価会合への参加

伊藤、鈴木が「年間レビュー会合」(7月28～29日、インドネシア・ジョグジャカルタ市)に出席し、各国実施パートナー団体、ドナー機関各担当者(UNDP本部・フィリピン、国連食糧農業機構(FAO)インドネシア)、NGO関係者との意見交換を行った。

また、ACC21の推薦により国際炭やき協力会事務局長の広若剛士氏が、日本の有機農業技術の実践者・指導者のダイレクトリート作成と有機農産物の市場評価を行い、同会合でその結果を発表した。さらに、広若氏の紹介により韓国の趙漢珪(ちょう・はんきゅう)氏がインドネシアで農民を対象に有機農業の技術指導を行った(9月13～16日)。趙氏は、その後、インドでも同様の指導を行った(10月10～18日)。

伊藤が事業終了評価会合(2006年2月21・22日、フィリピン・マニラ首都圏ケソン市)に出席し、各国の実施パートナー団体(インドネシア、インド、フィリピン、日本)から終了評価報告を受けるとともに、同会議に出席していた国際ドナー機関担当者らと情報交換を行った。なお、伊藤は、AJPNコーディネーターとして、両会合の開会挨拶を行った。

#### (2) その他

##### ① AJPN 運営委員(アジア域内ネットワーク NGO 代表委員、フィリピン、インドネシア、ネパール、バングラデシュ NGO 関係委員および UNDP 駐日事務所代表)との調整活動

ACC21の開設記念パーティ(5月)にAJPN運営委員らから激励メッセージを受けた。

また、上記「持続可能な農業推進・能力強化事業」について、AJPNの全運営委員に情報提供を行い、フィリピン事業管理事務所からはホームページ(<http://www.ajpn-sa.org/>)、メールマガジン(SA Grassroots Action (SAGA))の形で各運営委員にも情報が提供され意見交換が行われている。

## 4) その他事業

(1) 「NGO - 労組国際協働フォーラム」事務局活動 –JANIC よりの受託事業  
(特活) 国際協力 NGO センター (JANIC) からの受託事業として、「NGO・労働組国際協働フォーラム」(以下「フォーラム」) の事務局活動を以下の内容で実施した。

### <合同企画委員会、NGO 側企画委員会の開催>

- 合同企画委員会の開催にあたり、フォーラムの活動方針、運営、内容等についての資料作成を行い、委員会開催のための事務局活動を行った(全8回:第13回(4月6日)～第20回(2006年2月17日))。
- NGO 側企画委員会の開催にあたり、フォーラムの規約や方針、活動計画および予算、事務局体制等に関する資料作成を行い、委員会開催のための事務局活動を行った。

### <NGO-労組交流学習会の実施> (6月21日)

- NGOと労働組合の間の情報交換、人的交流、相互学習を目的に、「教育分野における NGOと労働組合の協働」をテーマに第3回交流学習会を実施した(参加者30名)。

### <公開シンポジウムの開催> (7月15日)

- 公開シンポジウム「日本の途上国援助と国連ミレニアム開発目標(MDGs)～政府と市民社会(労働組合とNGO)の協働に向けて～」(参加者約110名)の準備と実施、報告書の編集と発行(11月、250部)、関係先への配布を行った(12月)。

### <GCAP 国際シンポジウムの開催> (10月4日)

- 「貧困撲滅のためのグローバルコール(GCAP)」キャンペーンの一環として、連合とNGO・労組国際協働フォーラムが国際シンポジウムを共催(参加者約400人)。パネリストとして、ACC21が推薦したフィリピンCARDグループ代表のアリス・アリップ氏が招請された。その他、本フォーラム会員のNGO8団体によるパネル展示などを実施した。

### <短信作成> (4月28日)

- フォーラム会員団体、JANIC 正会員団体など約100団体に短信を配信した。

### <広報活動>

- JANIC の NGO 通信「地球市民」7・8月号、9月号で、フォーラム活動の紹介を行った。

### <MDGs 啓発・提言グループ活動>

- ①MDGs 啓発・提言グループ会合開催 (4月6日)
- ②MDGs に関する学習会開催 (5月17日)
- ③巡回セミナー (4月8日、開催場所:電機連合)

伊藤が講師として、フィリピンの貧困の現状と世界の貧困問題、MDGs の設定背景と内容を説明し、MDGs への取り組みについて意見交換を行った(労組広報担当関係者約20名が参加)。

- ④メーデーへの参加 (4月29日)

### <連合との調整活動>

- フォーラムとMDGs 啓発・提言グループの活動日程、運営、会合記録、事業計画・予算、フォーラムの方針や事務局体制について連合事務局と調整活動を行った。

### <NGO 側事務局の移行と引継ぎ>

- 本フォーラムの事務局を JANIC より ACC21 が受託していたが、連合側より JANIC に戻してほしいとの要請があり、事務局を JANIC に戻すこととなり、2月17日に引継ぎを行った。

## (2) 公益信託 今井記念海外協力基金

2005年3月開催の諮問委員会で決定されたスマトラ島沖地震・津波被災地緊急援助案件（インドネシア NGO）のフォロー活動を行った。

信託事務の委任に関する協定を同基金の受託者である三菱 UFJ 信託銀行株式会社と締結し（2005年12月21日）、同協定に基づき、以下の事務委任の作業を行った。

- ・ 募集要項・申請書等の修正（12月下旬）
- ・ 申請書の内容確認・聞き取り調査（メール・電話）
- ・ 基金諮問委員会提出用資料の作成
- ・ 平成16年度緊急救援および平成17年度助成案件の中間・完了報告書の要点整理
- ・ 基金諮問委員会での申請書についての説明
- ・ 助成決定後のフォローアップ活動

## (3) 公益信託 川上甚蔵記念国際文化教育振興基金

2005年3月開催の運営委員会で決定された事業2件（インドネシア、フィリピン各1件）の実施団体との連絡調整およびモニタリングを行った（実施者鈴木、インドネシア：2005年8月、フィリピン：12月3日、10日）。

2006年度の助成事業の募集を行い、2006年3月1日開催の2005年度運営委員会において中間報告を行うとともに、基金設定者への報告書を作成した。また、決定した2事業（フィリピン1件、インド1件、助成総額130万円）の実施団体との連絡調整および不採用案件の結果報告、送金・協定書に関する連絡調整を行った。

## 5) ACC21 の財政・組織基盤整備事業

### (1) 財政基盤の確立

#### ① 正会員、賛助会員、寄付金の募集

募集要項、関係資料を作成し、正会員、賛助会員、寄付金募集を行った結果、2005年度の入会および寄付は次のとおりとなった。

	2005年3月～9月	10月～06年3月	合計
<b>正会員</b> (入会金3万円、年会費1万円/口)	6名(240,000円)	8名(320,000円)	<b>14名(560,000円)</b>
<b>賛助会員 個人</b> (年会費1万円/口)	1名1口(10,000円)	7名7口(70,000円)	<b>8名8口(80,000円)</b>
<b>賛助会員 団体</b> (5万円/口)	—	1団体1口(50,000円)	<b>1団体1口(50,000円)</b>
<b>特別賛助会員</b> (5万円/口)	1名4口(200,000円)	1名2口(100,000円)	<b>2名6口(300,000円)</b>
<b>寄付金</b>	635,000円	325,634円	<b>960,634円</b>

## ②その他財源の開拓

(財)MRA ハウス、連合「愛のキャンパ」に助成申請書を、そして外務省の相談員制度に応募した。このうち、(財)MRA ハウスより助成金 80 万円 (2005 年 3 月に 30 万円、9 月に 50 万円) を受けた。

また、伊藤代表理事が講演会に招かれた折には、可能な限り ACC21 の紹介パンフレットを持参し、広報に努めた。適宜、訪問者に対しても賛助会員としての参加を勧誘した。

## (2) 組織基盤の整備

### ①事務局体制の確立

2005 年 3 月 1 日に、(財)公益法人協会の一室 (9 階) に、事務局を正式に開設し、円滑な事務局活動のための整備を以下のように行った。原則、毎週月曜日に事務局会議を開催し、スタッフ間の意思疎通と事業の調整を行った。

- 2005 年 4 月 1 日より、伊藤、鈴木、清水、大熊の 4 名が有給スタッフとして業務 (2005 年 3 月中はボランティアとして活動)
- 事務所内での電話、ファクス、インターネットの通信設備 (4 月、5 月)
- 「アジア・コミュニティ・センター21 設立記念パーティ」の開催 (5 月 20 日、御茶ノ水の日本ウォーキング協会セミナールーム) : NGO、政府機関、国連機関、企業、財団、労働組合関係者など約 80 名の参加者を得た。
- 事務所スペースの限界から、アジア文化会館に事務所を移転 (7 月 1 日)
- ACC21 ロゴ決定 (5 月)、スタッフ名刺 (9 月)、レターヘッド、封筒作成 (11 月)
- ACC21 開設記念パーティ (5 月)、連合メーデー (5 月) での ACT 出展においては、立教大学大学院生、JANIC スタッフの協力を得て体制を整えた。
- ACC21 ホームページの準備と開設 (10 月開設)

### <スタッフの研修>

10 月中に経理担当者が (特活) 国際協力 NGO センター(JANIC)の運営する「会計講座」にスタッフ研修として参加し、(4 回シリーズ)に参加し、経理の基礎を学んだ。

2005 年 11 月 29 日から 12 月 7 日まで、アジアの現場を体験するスタッフ研修事業の一環として、清水がフィリピンの ACT 助成事業モニタリング (鈴木) に同行し、4 ヶ所の事業を視察し、現地の ACT デスク・スタッフや現地 NGO 代表者と意見交換を行った。

### ②法人格取得の準備作業

任意団体としての経験を積み、法人格取得に役立てるという方針の下、前期においては、法人格取得のための申請手続き行わなかった。後期 (11 月中旬) より、関係行政機関と接触し、申請手続きを始める予定。

## II、組織の運営・処務に関する事項

### 1、総会

2005年度は初年度であるため、通常総会は開催されなかった（会則第4章 総会 第21条参照）。

### 2、役員（2006年3月31日現在）

【代表理事】	伊藤 道雄	立教大学 21世紀社会デザイン研究科教授 公益信託アジア・コミュニティ・トラスト事務局長
【理事】	赤石 和則	拓殖大学国際開発学部教授
	石井 達郎	エスジー信託銀行（株）ディレクター
	木谷 道宣	（社）日本ウオーキング協会専務理事
	毛原 清	（財）MRAハウス理事
	柴田 敬三	（株）ほんの木代表取締役
	清水 恭子	ACC21 渉外・総務担当
	鈴木 真里	ACC21 事務局長代行・事業担当
	長畑 誠	アジア地域づくり研究会・あいあいネット代表
	浜田 忠久	（特活）市民コンピューターコミュニケーション研究会代表
	山田 祐彰	東京農工大学大学院農学府国際環境農学専攻教員
【監事】	秋尾 晃正	日本民際交流センター代表

### 3、理事会の開催

第1回（2005年5月16日（金） 午前11時～12時30分）

開催場所：アジア文化会館 103教室（文京区本駒込2-12-13）

議題1. ACC21 現状報告について

2. ACC21 設立記念パーティについて

3. ACC21 パンフレットとロゴについて

第2回（2005年11月8日（火） 午前10時30分～12時30分）

開催場所：アジア文化会館 127教室（文京区本駒込2-12-13）

議題1. 2005年度前期活動の報告（事業報告、中間決算）について

2. 2005年度後期活動（活動計画の内容、募金）について

3. 特定非営利活動法人認証申請と委員会設置について

4. 個人情報の取り扱い規定について

5. 次年度以降の活動について

第3回（2006年3月27日（火） 午前10時30分～午後1時）

開催場所：アジア文化会館 127教室（文京区本駒込2-12-13）

議題1. 2005年度後期の活動報告について

2. 2006年度事業計画案と収支予算案について

3. 正会員の承認について

4. 報告事項：①AJPN「持続可能な農業普及」事業終了評価会議について、②事務局人事について

#### **4、事務局**

事務局長代行 鈴木真里 (2005年4月入職)

ほか

有給非専従 3名

#### **5、正会員** (2006年3月31日現在、14名)

個人 14名

#### **6、賛助会員** (2006年3月31日現在)

2006年3月31日現在の有効会員数

個人賛助会員 8名

団体賛助会員 1団体

特別賛助会員 2名

以上